居住地校交流のお誘い

新潟市立西特別支援学校

居住地校交流について

陽春の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

保護者の皆様の中には、「幼稚園や保育園で一緒だったお友だちと継続して顔を合わせる機会があればいいのにな。」「夏休みのラジオ体操や子ども会の行事に参加する時、声を掛け合える友だちがいたらいいな。」「将来地域の中で暮らすために、地域の子どもたちと交流していきたいな。」のような思いを抱かれたことのある方はいないでしょうか。

当校では、そのような願いに近付くため、児童・生徒が保護者と共に居住地の学校に出向いて交流活動を行う**「居住地校交流」**を実施しております。

うちの子の様子を
地域の人たちに
知ってもらいたい

うちの子も
地域の子どもたちと
なかよく遊んだり
たのしく活動したり
できたらいいなぁ…

保護者、本人の希望でスタート

⇩

居住地校に交流を依頼

⇩

交流担当職員に連絡（担当者の確認、これからの連絡・調整などについて）

⇩

担当者（主に担任）で交流の日程・内容・場所などについて検討
当校の子どもの実態、保護者の希望、居住地校の状況などに応じた交流

⇩

○行事などの見学・参加

学校行事（運動会や文化祭など）、学年行事（学習発表会や合唱発表会など）学校を開放した行事などを見学したり、参加したりします。

○特別支援学級との交流

クリスマス会やお楽しみ会などへの参加、生活単元学習での畑の種まきや大根の収穫、教科学習への参加、給食や清掃、昼休みの自由交流などで一緒に活動します。

○通常の学級との交流

図工で一緒に工作をしたり、学年行事でゲームに参加したり、他学年も交えた縦割りの清掃活動で雑巾がけをしたり、給食を一緒に食べたりします。

※　交流の際、学校までの送迎･付き添いは保護者が行います。
安全面に十分配慮し、必要に応じて保険への加入をお勧めするなど、交流がスムーズに進むよう、周りの関係者で支援していきます。

下記の「基本計画」をご理解いただきました上で、居住地校交流をご希望される方は、別紙「居住地校交流申込書」を担任へご提出ください。ご希望や相談のある方は、随時担任までお申し出ください。

居住地校交流に関する基本計画

＜交流のねらい＞
・居住地の同年代の友だちと関わったり、一緒に活動する楽しさを味わったりします。
・地域との関わりを広げるためのステップとします。

＜交流相手＞
・原則として、居住地の小学校、中学校とします。

＜送迎・引率＞
・保護者が送迎し、保護者の責任の下、活動に参加します。
（※あらかじめ、ＡＳＪ、ＡＩＧなどの損害保険への加入をお勧めします）

＜保護者の参加と学校の支援＞

保護者	学校職員
毎回参加します。	・保護者と一緒に１回交流に付き添います(なるべく初回に行います)。 ・その他は児童生徒の実態や打ち合わせにより決定します。

＜出席の記録について＞
・交流のために居住地校に出席し、当校に出席できなかった場合は、「出席」とします。

＜交流形態・回数・活動内容など＞
・交流期間は原則として６月～12 月とします。
・実施の可否、回数、内容などについては、保護者の希望を基に、居住地校の担当者と協議した上で、保護者、相手校、当校と合意形成を図り決定します。
・必要に応じ、保護者、当校担当者、相手校担当者による事前打ち合わせを行います。
・会食や調理等の活動がある場合は、相手校に内容や費用を確認し、協議した上で実施します。なお、会食や調理にかかる費用や必要な物品は保護者が準備します。

＜その他＞
・交流にかかる費用は、保護者の負担とします。
（交通費は就学奨励費の対象となります。）

居住地校交流の実践例

平成２３年度から取り組み始めた「居住地校交流」。これまでに、たくさんのお子さんが実際に自分が住む居住地の小学校・中学校で交流をしています。不安や戸惑いを抱えながらスタートした方もいますが、みなさん、様々なことを経験し、お子さんのいつもとは違うステキな姿を見られています。

「居住地校交流ってなに？」「うちの子もできるのかな？」「ちょっとやってみたいけど、不安が・・・。」そんな方もいらっしゃるかと思います。今回は、２つのケースを紹介します。ご覧いただき、少しでも関心をもっていただけたらと思います。

ぜひ、一歩踏み出して、お子さんと地域に出てみませんか？

＜小学部Ａさん＞

交流への要望
- 保育園の友達、地域の人との関わりを広げたいな。
- 西特以外でも同年代の子どもたちと関わる機会を持ちたいな。

交流の内容
- 総合学習の授業（校外活動）へ参加。
- 児童会祭りへ参加。

お子さんの様子
- 最初は緊張していたが、少しずつ笑顔が増え、楽しそうだった。
- 保育園からの友達がたくさん寄ってきてくれて嬉しそうだった。
- 友達がペースを合わせてくれ、一緒にゲームを楽しんでいた。
- 「また来年度も参加したい」と言っている。

交流をしてみて･･･
- 登校時に友達が手を振ったり、声を掛けたりしてくれるようになった。
- 本人が楽しみにし、相手校の対応も温かかった。

＜中学部Ｂさん＞

交流への希望
- 交流を通して、いろいろな人と関わってほしいな。
- 地域の人に、子どものことを知ってもらいたいな。
- 他の学校でも作業学習を頑張っている生徒がいることを知ってほしいな。

交流の内容
- 校舎内の見学、自己紹介。
- 作業学習（封筒作りや表示作りなど）へ参加。
- 休憩時間に友達と談笑。

お子さんの様子
- 緊張しながらも、初めて使う用具を上手に使い、作業することができた。
- 顔見知りの友達と再会すると嬉しそうだった。
- いつもと違う環境だったが、挨拶をきちんとすることができた。
- 西特以外でも作業学習を頑張っている生徒がいることを感じていた。

交流をしてみて…
- 西特以外に同世代の子供たちと関わる機会を持つことができてよかった。
- いつもと違う作業でも、頑張って活動することができていた。この経験を通して、他の作業にも挑戦してもらいたい。